

放射線による健康影響に関する有識者会議 報告書の骨子(鈴木試案)

1 はじめに

本会議設置の経過等を記載

2 栃木県内の被ばくの状況について

2-1 有識者会議の見解

- ・これまでのモニタリングデータや食品等の摂取制限の状況から、県内の被ばくは低く抑えられていると予測
- ・低線量被ばくによる健康影響
- ・WSPEEDI のシミュレーション結果から、幼児(1才未満)の甲状腺等価線量は5mSv未満に抑えられており、甲状腺がんのリスクを懸念する被ばく状況ではないと判断
- ・県民の不安の軽減には被ばく状況を目に見える形で示すことが重要
- ・栃木の主な被ばく経路は、①地表面からの外部被ばく＝初年度おおむね～5mSv、②食物からの内部被ばく、と予測
- ・県に対し①学校等の給食調査(陰膳方式)、②ホールボディーカウンターによる測定、③個人線量計による測定、④空間線量率からの被ばく線量推計の実施を提案

2-2 県民の放射線被ばく線量を把握するための調査

2-2-1 内部被ばく調査

- ・学校等の給食調査(陰膳方式)

調査の概要を記載

- ・ホールボディーカウンターによる測定

調査の概要を記載

- ・内部被ばく調査のまとめ

市場流通している食材を使用した給食の放射性セシウム含有量は極めて微量、また、体内に取り込まれている放射性セシウムは検出できないほどの量であり、事故後食事を通して体内に摂取した放射性セシウムは、本会議の予測どおり極めて微量であることを確認

2-2-2 外部被ばく調査

- ・ 個人線量計による幼保小中学生の被ばく線量測定

調査の概要を記載

- ・ 空間線量率を用いた積算線量推計

調査の概要を記載

- ・ 外部被ばく調査のまとめ

第4回会議で議論

3 総合評価

第4回会議で議論

4 今後の対応（県への提言）

4-1 基本的考え方

県民の不安払拭に向けた取り組みの継続

今後の状況に応じた的確な対応

4-2 取組の方向

モニタリング等による可視化の継続

情報提供とリスクコミュニケーションの継続

第4回会議で議論

5 おわりに